

万人幸福の栞
解説

*今日の観点から見ると違和感を覚える表現もありますが、
歴史性を考慮して原文のままとしました。

まえがき

本書は丸山敏雄著『万人幸福の栞』の解説です。『万人幸福の栞』そのものは、解説を必要としないほど分かりやすく、きっぱりと述べられているのですが、時代がたつにつれて、解説書の必要をみるに至りました。中には、意味のむつかしいところもあるというので、私はしばしば質問を受けたこともあるのです。

そうしたところから、私はこの十数年間、雑誌『新世』や『倫理』その他などに、その解説を断片的に発表してきたものを、この際、ここに一本にまとめることにしました。

①本書では「栞」の「序」と本文以外は省くことにしました。終わりの「死は生なり」の文章は非常に重要な内容であります。頁数の都合もあるので、また別の機会に譲ることにしました。たとえば拙著『丸山敏雄 人と思想』の第二章以下（第一節 太陽の人 など）ご参照ください。

②本文については、十七カ条の一つについて、(一)字句の解説と、(二)内容の解説と二つに分けてみました。

③「序」については、最後に解説するかたわら、「栞」の成立に関する事柄をも述べました。

④引用した文章については、わずらわしいとは思いましたが、読者の便を思って、なるべく書名その他のを一々具体的に掲げるようにしました。

⑤原著者の丸山敏雄先生について、本文解説中では「著者」というようにあらわしました。本書では著者とあるのは丸山敏雄先生のことですから、特にご注意を願います。

⑥全体として、なるべく分かりやすい文章や言葉を使うように気をつけました。

以上を考えてまとめたのですが、読み返してみますと、分かりやすく解説したつもりが、かえって分かりにくくなっているところがあること、説明の重複があること、詳し過ぎるところ、たとえば、「日々好日」「苦難福門」「人生神劇」などの解説に、多く頁を使っているとか、反対に簡単過ぎるところがあることなどで、その一々については、なぜそうなったか理由もあるのですが、ともあれ、全体としてまことに不体裁な、内容の乏しい解説書になってしまったことを悔いております。

なお、なぜ「今日は最良の一日、今は無二の好機」が始めに来て、「人生は神の演劇、その主役は己自身である」が終わりになっているのか、といった配列の順序の問題その他、この「葉」については研究すべき問題がたくさん残っています。それらについて、私としてはすでに研究してあるものもあるのですが、これは『万人幸福の葉』の研究書として、別にまとめるべきだと思っていますので、本書ではすべて省くことにしました。その意味でも本書は研究書というべきではないので

すが、しかし、たとえば二六九頁にも挙げておいたような、働はたらきについての五つの意味の考察などは、一つの研究とも言えるかと思えますし、そうしたところも若干ほかにありますので、本書をもつて私の「丸山敏雄の思想研究」第二巻とさせて頂きたく考えております（第一巻は『倫理と宗教』（現在は絶版）、第三巻は『丸山敏雄 人と思想』）。

とにかく、「苦難は幸福の門」という一つだけをまとめても、充分に一冊の本ができるくらい深い内容があるので、この解説書は、文字通り初歩の手引きのようなものだと思つていただければ十分です。ただ、中には私が勘違いして理解していたり、誤った解釈をしていたりするところがあるといけませんので、広く皆様にご教示を得たいと思つております。そして将来は逐次改訂増補してゆきたいと念じておりますので、よろしくお願いをいたします。終わりに本書の出版に力を尽くされました方々に厚く御礼を申し上げます。

昭和五十七年十一月十日新版にあたって

丸山竹秋

万人幸福の葉 解説〔目次〕

まえがき……………iii

一 今日是最良の一日、今は無二の好機……………1

字句の解説 2 内容の解説 15

二 苦難は幸福の門……………47

字句の解説 48 内容の解説 62

三 運命は自らまねき、境遇は自ら造る……………85

字句の解説 86 内容の解説 97

四 人は鏡、万象はわが師……………117

字句の解説 118 内容の解説 146

五 夫婦は一对の反射鏡……………157

字句の解説 158 内容の解説 167

六	子は親の心を実演する名優である……………	179
	字句の解説	180
	内容の解説	188
七	肉体は精神の象徴、病気は生活の赤信号……………	199
	字句の解説	200
	内容の解説	208
八	明朗は健康の父、愛和は幸福の母……………	221
	字句の解説	222
	内容の解説	230
九	約束を違えれば、己の幸を捨て他人の福を奪う……………	243
	字句の解説	244
	内容の解説	255
十	働きは最上の喜び……………	267
	字句の解説	268
	内容の解説	280
十一	物はこれを生かす人に集まる……………	293
	字句の解説	294
	内容の解説	304
十二	得るは捨つるにあり……………	317
	字句の解説	318
	内容の解説	327
十三	本を忘れず、末を乱さず……………	341
	字句の解説	342
	内容の解説	352

十四 希望は心の太陽である……………365

字句の解説 366
内容の解説 374

十五 信ずれば成り、憂えれば崩れる……………387

字句の解説 388
内容の解説 396

十六 己を尊び人に及ぼす……………409

字句の解説 410
内容の解説 419

十七 人生は神の演劇、その主役は己自身である……………431

字句の解説 432
内容の解説 448

『万人幸福の葉』の出来るまで 461

装丁 田中 孝和

本文設計 山口真理子